

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1495100255	事業の開始年月日	平成26年11月1日
		指定年月日	平成26年11月1日
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター 川崎御幸		
所在地	(〒212-0051) 神奈川県 川崎市 幸区 東古市場 22番地		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	H29年11月15日	評価結果 市町村受理日	平成30年5月7日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2014年11月1日より小規模多機能型居宅介護と認知症対応型共同生活介護の複合型施設として開所し、早3年が経ちました。
29年度は管理者が変わりホームの雰囲気、特色も大きく変わってきました。私が赴任してきてまず驚いたのが、スタッフとお客様が自然体で笑いが自然と出で来る。そんな雰囲気に微笑ましく思い感銘をうけました。
また地域に密着と言う観点からも、納涼祭のさいもお神輿がホームに立ち寄ってくれたり、町内会長様とお話が出来たりなど他のはない深いかかわりが持っているとしたいと思います。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	平成29年12月6日	評価機関 評価決定日	平成30年3月14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】
この事業所は、JR川崎駅から川崎市バスで約10分の「東古市場」バス停から徒歩約3分の住宅地に位置する。広い敷地に建つ鉄骨造3階建ての2階、3階がグループホームで、1階が併設の小規模多機能型居宅介護事業所となっている。隣接して御幸公園があり、その先には多摩川の土手と川原が広がり、景観の良い散歩コースとなっている。

【理念の共有と利用者本位の支援】
「利用者が明るい笑顔で生活が送れるよう、その人らしい生活リズムを尊重した介護を行い、ルールを守り、安全・安心・安楽な生活を提供します」という事業所の理念は、事務所の入口や各ユニットに掲示され、誰でもいつでも目にすることができる。職員は、理念を共有し共感して日々の支援を行っている。
職員は、常に笑顔で明るく接することにより、利用者の笑顔を導き出している。その人のこれまでの暮らし方やリズムを尊重し、行動を制止したり無理強いしたりすることなく、利用者の心身状況を見て、起床や入浴、昼食など、その人本位に相手のペースに合わせて支援している。訪問時、職員を信頼し冗談を言い合いながら、レクリエーションや食事を楽しむ利用者の姿を見受けた。
介護に必要な研修を受け、資格を身につけた職員が多く、コンプライアンスに基づいて利用者の安全確保に気を配り、安心して楽しく暮らせるように努めている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	ニチイケアセンター川崎御幸 ニチイのほほえみ
ユニット名	ひだまり（2F）

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

事業所名	ニチイケアセンター川崎御幸 ニチイのほほえみ
ユニット名	ぬくもり（3F）

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ニチイ学館に、経営理念や、全国のニチイのほほえみ共通の理念はあるが、ニチイケアセンター川崎御幸は、拠点単体の理念を作成し、理念に即した介護を実践している。	開設時に、管理者やスタッフが話し合っって作成した事業所の理念は、「明るい笑顔で、その人らしく、安全、安心、安楽な生活を」という趣旨で、各ユニットに掲げている。職員は、理念を念頭に自らも笑顔を決やさず、利用者のペースに合わせて支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年度までは地域との交流が不十分だったが、2016年7月より、古市場町内会との交流を深めている。毎月10日の町会に参加させていただき、情報交換をしている。	町内会に加入している。地区の祭りでは事業所前にお神輿が来てくれ、飲み物を振舞うなどの交流がある。イベントなどの際には、オカリナ演奏や腹話術のボランティアが来訪している。近隣の中学校とは、知人を介して職場体験の受け入れなどを模索している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度より、地域交流に力を入れている。地域で介護の困り事があれば協力する準備は出来ている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	直近の運営推進会議では地域連携に関する話し合いを行い、地域との交流は向上している。サービス内容に関しても発展途上ではあるが、地域密着型の施設として、活動している。	運営推進会議は、2か月毎に開催している。構成メンバーは、家族、町内会長、地域包括支援センター職員、管理者、職員などであるが、メンバーが揃うことが少ない。地域包括支援センターとは、連携が取れており、運営推進会議への協力を依頼している。	運営推進会議に、行政や家族、地域の知見者などを招き、事業所や利用者の状況を説明し、参加者から助言を得て、運営やサービスの向上に活用することを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	自拠点の努力不足な部分を改善するように活動している。地域との協力体制が出来始めている。	幸区役所の高齢・障害課へ運営推進会議の報告書を届ける際に、事業所の現状などを話している。地域包括支援センターなどに空き家情報やパンフレットを渡し、相談をしている。川崎市の集団指導講習会に参加し、法改正や運営に関する情報を得ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部徘徊や事故防止の観点から2階と3階の出入り口や窓は施錠を施しているが、1Fに関しては自由に出入りできるようにしている。入居者様の意向があれば、フロアは自由に行き来ができる。	法人の「高齢者虐待防止のマニュアル」を職員に周知し、その方針に従って利用者に対応している。職員の言葉による制止も見られない。車椅子を利用している方も乗ったままにならないよう、適宜椅子やベッドに移乗して体を休めてもらうようにしている。ユニットの入口は、安全のため家族に説明して施錠しているが、玄関や3階のベランダは、昼間は開放している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	当社のマニュアルを用いて指導や研修を行い、身体拘束や虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	介護職員は契約等には直接は関わっていないため、現状は学ぶ機会がない。管理者・ケアマネジャーが必要な情報を現場に落とし込み、情報を共有するよう取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約やアセスメントの際に、必要事項の説明や質疑応答をおこなっている。契約締結後も、疑問があれば随時相談にのっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会の頻度が高く、ご意見を頂ける機会が多い。入居者様からの意見を頂く機会も多いので、都度参考にし、改善すべき点は改善するよう心がけている。	家族が頻繁に訪問してくれるので、その都度話し合っ意見や要望を聞いている。家族から、「居室に持ち込んだベッドでは、ずり落ちる」という相談を受け、福祉用ベッドの貸与に切り替えた事例がある。家族の個別相談は居室で行い、複数の家族との面談は、多目的室を利用している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務ミーティングにて運営方針の説明や、質疑応答をおこなっている。 また、業務時間外には親睦会等の交流も行っている。	職員は、ユニット会議などで活発に意見を述べている。管理者は、日常でも職員の相談や提案をその都度聞き取り、サービスなどに反映させている。 「車椅子利用者の入浴について、1階の機械浴を利用してはどうか」「エレベーターを使えない場面を想定した避難訓練をしてはどうか」という提案があり、実行に移した例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	直接雇用の職員が少なく、派遣職員を雇用している。職員不足に伴い残業を余儀なくされているが、現場では各自のモチベーションを落とさぬよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現場においては外部の研修の案内をしている。会社としてはキャリアアップ制度を用いて給与アップの取組がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	支店に伺いを立てた後、市内の同業者の連絡会に参加し情報収集や情報の共有に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学時やアセスメントの際に本人やご家族様等から情報を収集し、御本人が不安無く過ごせるようケアプランを作成し、プランを基に支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時やアセスメントの際に本人やご家族様等から情報を収集し、入居後は適宜連携を取りながら2人3脚で介護を行う事を念頭においている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学時やアセスメントの際に本人やご家族様等から情報を収集し、日々の様子を見ながら、必要に応じて、適宜ケアプランの内容を変更しながら支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のペースに併せて、無理強いせずに様子を見ながら、他の方との交流を図っている。違うフロアの入居者、利用者とも交流している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々、様子を見ながら、面会時や家族会の際に意見交換を行っている。施設、家族、本人様での二人三脚での介護を念頭に置いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご本人様からの謝絶の要望がある場合を除き、基本的な面会の制限は無く、外出、外泊などの要望にも、事前の連絡を頂いた上で応えている。	知人や遠方の家族などとの電話や手紙のやり取りを支援している。友人、知人の来訪が多く、利用者の好きなものを持って来てくれたりしている。孫や曾孫が訪ねてくることがある。面会に訪れた方は、多目的室や居室に案内し、湯茶でもてなして歓談してもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	無理強いをしないよう心がけながら、入居者様同士のかかわりを心がけています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、相談に乗ったり、可能な範囲での情報提供や、支援に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	安心・安全・安楽を念頭に置き、本人の意向を尊重している。自分で発言が困難な方の場合には、その方の立場になって考えるようにしている。	入所時のアセスメントで、利用者の思いや意向を確認し、その後も継続して把握している。日ごろの会話の中で、意見や希望が出てくることが多い。重度の方や言葉が出にくい方は、表情や仕草などから思いを汲み取っている。把握した事柄は、介護記録などに記録、共有して、介護計画やサービスに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント時の情報やセンサー方式を用いて支援経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を観察しながら、気付いたことがあれば記録に落とし込み、職員間で情報共有を行うと共に、現有能力によってできる事はご自身で、難しいことは介助にて対応するよう心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様の来訪時に近況報告や意見交換を行ってからプランの見直しをしている。遠方で足の遠い家族の方に関しても電話にて報告、相談を行っている。	介護計画は、本人の心身状況や家族の希望から、課題やニーズを抽出して作成している。職員は、計画の目標や具体的なサービス内容に沿った実施状況を記録している。支援経過記録を基に、職員が参加してモニタリングや評価を行っている。計画の見直しは、原則3か月から6か月、状況に変化があれば随時行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録の必要性に関しては職員に説明をしているが、現状は残念ながら記載が抜けている場合もある。記録の重要性を再度周知し、報告・連絡・相談を徹底する。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	安心・安全・安楽を念頭に置き、入居者様に危険の無い範囲内であれば、既成概念にとらわれないこととなく新しいことにチャレンジするように職員には周知している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との連携は不十分だが、各ご家族・身元引受人様とはきちんと連携し、入居者様ひとりひとりが安心・安全・安楽に生活できるようサポートしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回、提携医の幸クリニックの往診を受けている。容態急変時は幸クリニックの地域医療部に連絡し臨時に往診してもらっている。	協力医の往診は月2回、利用者全員が受診している。訪問看護師は週1回来訪し、健康管理を行っている。看護師とは24時間オンコール体制である。歯科医は週1回来訪し、希望者を診療している。皮膚科や精神科に通院している方は、原則として家族が対応している。自費で、訪問マッサージを利用している方もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携医の訪問看護室や、当事業所の看護師ときちんと連絡・報告・相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が発生した場合には、病院でのアセスメントを行い、退院後も入院前と変わらぬ生活を送れるように勤めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ニチイ学館としての看取りの規定は無いが、有事の際は家族や医療機関と連携し、なるべく家族の希望に添った方向での対応を心がけている。	「重度化した場合における対応に係る指針」を、契約時に説明し同意を得ている。重度化が進んだ場合は、提携医療機関と連携して対応することを家族に話している。事業所で最期を迎えたいと希望する場合は、医師、家族、事業所が話し合い条件を整えば希望に沿うように努める方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内に救急救命マニュアルはあるが、訓練はあまり行えていない。有事に備え、講習に参加したり、訓練を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設では3月と9月に訓練実施。地域との交流を深め、地域と連携し訓練を行う。	年2回、3月と7月に総合訓練を実施している。職員からエレベータを使用しない避難訓練実施の提案があった。キッチンの棚、リビングや居室のテレビなどに転倒防止策を施している。災害備蓄は、1階倉庫に3日以上の水・食料や備品、介護用品などを保管している。	年2回の訓練のうち、1回は夜間想定訓練を実施することを望みます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の尊厳と自立を守り、プライバシーに配慮した声かけが行えるように努力している。	介護の声かけや誘導は、その人のペースに合わせて行い、制止したり急かしたりしていない。家族との個別面談は、居室で行っている。洗濯室と脱衣室を隔てるカーテンを設置し、プライバシーの確保に努めている。リビングで使う記録類は、使用後は戸棚に収納し、個人情報を含む書類は、事務室の戸棚に施錠して保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	安心・安全・安楽を念頭に、入居者様本位の生活を営めるように適宜努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の強制ではなく、入居者様自身の意思決定を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問理美容の利用や、入居者様それぞれの好みに応じた対応を心がけている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立に関しては食材業者を利用している為、入居者様と一緒に考えることはできないが、可能な範囲のお手伝いを促し、楽しむ努力をしている。	献立と食材は、専門業者に配達を依頼している。職員が、個人の好みや身体状況に配慮し、形態や味付けを工夫して調理している。職員は、利用者の食事中は見守りや介助に専念している。誕生日には、ケーキを提供している。バーベキューを行うなど食事を楽しむ工夫をしている。手伝いができる方には、お願いしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材業者で栄養バランス等の計算をしている。拠点では水分量を把握し、少ない方には促しを強化したり、嚥下機能の低下している方にはトロミの使用や、必要に応じて介助を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後、就寝時に口腔ケアの誘導を行っている。毎週（月に4回）木曜日に訪問歯科の往診があり、希望者は診察をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一応の排泄誘導の時間の目安を決めているが、基本的には入居者それぞれの排泄リズムを把握し、時間ではなく入居者様のリズムに合わせた誘導を行っている。	トイレは清掃が行き届き、清潔である。1か所には男子用便器を備えている。排泄介助は、排泄パターンを把握し、様子を見て、さりげなく声かけや誘導をしている。失敗したときは、浴室に隣接したトイレに誘導して手早く処理している。夜間は、睡眠を優先しているが、目覚めた利用者には、見守りや誘導をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	提携医と連携しながら日々の排泄の確認を行い、便秘になりやすい方には水分補給や適度な運動促し等の取組をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日いつでも入れるように準備している。9名様に週2回以上入浴していただく為、1日3人の目標を設定している。羞恥心に配慮し、強制ではなく、快く入っていただけるよう促しを工夫をしている。	入浴は原則として週2回の午前中であるが、希望により時間や回数を変えている。利用者の体調により、シャワー浴などで対応することもある。浴槽の湯は1名毎に交換し、衛生を保つ配慮している。空調設備で、ヒートショック対策をしている。利用者の状況に合わせて、柚子湯や菖蒲湯を行ったり、入浴剤を使用している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中傾眠が見られる方には適宜時間を見ながら休んでいただいている。夜間に関しては就寝・起床の目安を設定しているが、強制せず個々のタイミングで様子を見ている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時に薬剤師が立会い、薬の管理をしている。何かあれば提携医と薬剤師に相談している。服薬時は職員のダブルチェックを徹底するよう指導している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	強制をしない範囲で入居者同士の関わりをサポートしたり、孤独が好きな方に関しても放って置くことなく関わりを持つよう取り組んでいる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は毎日散歩外出をするよう徹底している。近隣の買い物時や、集団外出が苦手な方は個別対応など、強制ではなく、皆様が進んで外に出ただけよう取り組んでいる。	散歩が日課になっており、天候が許す限り車椅子利用の方も一緒に隣接の御幸公園に出かけている。重度化や心身状況により外出が困難な方は、ベランダで外気浴や日光浴をしている。車を利用して、少人数で遠方の公園まで出かけることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には防犯上の観点からお小遣い金1万円を事務所金庫にてお預かりし、必要な物があれば買い物時にお渡ししています。自己管理ができ、家族が了承している方は自己責任にて管理し買い物等に使っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話をしないように厳重注意を受けている方は職員が対応しているが、そうでない方は自由に電話を使用している。手紙を書ける方は本人に記載していただき職員が郵送している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースを心地よく使用していただけるよう、華美な飾り付けや、移動の妨げになるような物は置かないようにしている。居室内は、なじみの品を持ち寄っていただいたり、好きなようにしていただいている。	リビングや廊下、階段室など共有部分は広くゆったりとしている。清掃は職員が行い、年に2回は専門業者が全館を清掃している。リビングは採光がよく明るい。空調設備や加湿器によって温度湿度を適正に保っている。リビングの一角にあるキッチン、フロア全体を見守りやすい。壁に、季節の飾りやイベントの写真が掲示してある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い通りに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースにおいては、あらゆる危険に配慮し、見守りの中、各入居者様の好きなように過ごしてもらっている。また、各フロアは自由に行き来していただいている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室において、適宜の安否確認以外は極力プライベートに配慮し、余計な干渉はしないように心がけている。	居室には、防災カーテン、空調設備、照明器具、収納設備、スライド式ハンガーなどが常備されている。ベッドは持ち込みか貸与を選択できる。馴染みの家具を置き、家族の写真や趣味の作品などを飾ってその人らしい部屋となっている。部屋の表示は、職員手作りの布や毛糸で出来たユニークな表札で、親しみやすく分かりやすい。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	認知症が軽度で、分別のつく方には家族了承の下、建物内はある程度自由に行き来していただいています。すぐに分からなくなる方にも分かり易いように環境を整備している。		

目標達成計画

事業所名 ニギハヤヒセンター 川崎青柳亭

作成日 平成30年 4月26日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	29、2	地域との連携が不十分であり、地域とのつながりを増やしていく。	地域との連携を前地・地域から行っている。行事などの参加が期待される。	地域での案内を十分に受け、川崎青柳亭の事を広く知ってもらいたい。	6ヶ月
2	49	雨降か作務を並に散歩などの運動を促しているが現在の状況。	7ヶ月の時間に余裕を作れるように、作務を改善し、外出の時間を作る。	作務内容を見直し、7ヶ月の予定に合わせる。	6ヶ月
3	13	法人外の石川修などにも受け入れ、職場環境を整える。	7ヶ月の石川修を受け入れることにより、キャリアアップの能力を高めるための。	7ヶ月に石川修の有無などを、自主的に積極的な受諾できるようにする。	6ヶ月
4	10	ご家族様の意見をいただくが、自覚の不足や対応ができていない部分がある。	意見を伺うことにより、自覚の不足を解消する。	意見が伝わらない場合は、7ヶ月に話し合いを行い、7ヶ月にまで考えていく。	6ヶ月
5	12	残業など夜勤が不十分である。	残業などを減らし、7ヶ月の夜勤を増やすことにより、職場環境を整える。	直轄・夏期の7ヶ月を、不十分であるが、余裕をみて、また、派遣を休む、1ヶ月より3ヶ月を減らす。	6ヶ月

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
 注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。